

◎著者にきく

『経営に効く7つの知財力』 土生 哲也

「知的財産の力でもっと経営を良くしたい！」
知的財産は経営のためにどう役立ち、貢献することができるのか？ 混迷の時代に知財の真の役割をもう一度原点から考え、どう経営に活かすべきかを分かりやすく説いた本が刊行されました。著者の土生弁理士に話を伺いました。



Profile

1989年：京都大学法学部卒業
日本開発銀行（現・株式会社日本政策投資銀行）入行、ベンチャー向け知的財産権担保融資制度の立ち上げ等を担当
1998年：新規事業投資(株)（政府系ベンチャーキャピタル）出向
2000年：弁理士登録
2001年：土生特許事務所を開業
URL <http://www.ipv.jp>
Mail ipvinfo@ipv.jp

現在はソフトウェア・金融分野を専門とする弁理士として活躍する傍ら、各種セミナーの講師としても活躍。特許庁の知財戦略支援関連の事業」や知的資本に着目したプロフェッショナルファーム・ICコラボレーションLLCに参画するなど、活動の場を広げている。

——今回の執筆にいたった経緯について教えてください。

私は金融機関の出身なので、「なぜ知財の仕事をするようになったの？」とよく尋ねられます。主にベンチャー企業への投融資を担当していたのですが、自分たちは企業を評価してお金を出すことはできるけれども、そこまでが限界。

一方、会計や法務、営業などのスキルを持った方々は、自分のスキルで企業の成長に貢献することができる。それがとてもうらやましく、プロフェッショナルとして、企業の成長に役立つスキルを身につけたいと思うようになりました。そのスキルとして選んだのが、ベンチャー企業の期待に十分に答えられていないと感じた知財の分野でした。

こうした経緯から、知財以前の問題として、「どうやって企業に貢献するか」という問いかけが、常に頭の中にあります。そして、知財の道を選んだからには、「知財のスキルでどのように企業に貢献するか」というテーマに、自分なりの答えを出していきたいと思っています。

今年で弁理士登録から10年になるのですが、実務家としていろいろな経験を積ませていただくとともに、特許庁の中小企業の知財戦略支援関連の事業などで、さまざまな中小・ベンチャー企業の

知財活動の実態に触れる機会を得ることができました。「知財のスキルでどのように企業に貢献するか」というテーマに対し、特にここ1～2年で考え方が整理されてきたので、一度自分なりに考えてきたことをまとめてみようと思ったのが、本書の執筆にいたった経緯です。

——本書の特徴についてお願いします。

そうですね、^{たと}ゆるなら、「東京に住む関西人が書いた東京のガイドブック」とでもいいでしょうか……意味不明ですか（笑）。「東京」を知財の世界、「関西人」を知財の専門家以外の人と置き換えれば、この喩えの意味をご理解いただけるのではないのでしょうか。

——なるほど、うまい喩えですね。

外にいた者が書いたガイドなので、外からの関心に沿って書かれています。かといって「東京を旅行した関西人」ではなく、そこに根を下ろして生活している者が書いたもので、現実には十分に踏まえているつもりです。関西の方には同じような目線で知りたかった東京のことが、東京の方には「関西人は東京をこういうふうに見ているのか」ということが書かれています、というイメージで書き下ろしました。ちなみに、本文は関西弁ではありません。念のためですが（笑）。

経営と知財というテーマを取り上げる

と、どうしても硬い文章になってしまいがちです。専門書というより、電車の中で流し読みできるような「読み物」として仕上げることを心がけたので、読みやすさも本書の特徴として挙げられるのではないかと考えています。

——どんな方に読んでほしいですか？

まず、「知財ってよく耳にするけど、一体、何の役に立つの？」という経営者の方です。特に、「うちの会社を伸ばすのに何か良い知恵はないか」と悩んでいらっしゃる技術系の中小・ベンチャー企業の経営者の方には、「何だ面倒くさい、知財か……」と避けずに、ご一読いただければと思います。

そして、「我々の仕事は企業にとってどんな意味があるのか」というテーマに関心がある知財担当のプロの方です。

——経営者から知財担当者まで、すべての人にお勧めできるということですね。

さまざまな立場の方に何かヒントを提供できればうれしいですし、簡単に答えを出せるテーマではないので、本書に忌憚のないご意見をいただき、さらにこのテーマを深めていけるといいですね^{*1}。

——本書の執筆で苦労されたことは？

基本的にはこれまでにセミナーなどで話してきた内容が中心なので、当初はそれほど苦労せずに書けるだろうと考えていたのですが、実際に書き始めると「つなぎ」が難しかったですね。個々のパーツとしては、それぞれまとまったものがあるのですが、全体を貫くものは何なの

か。共通しているものは何で、全体のシナリオのなかでそれぞれのパーツをどのように位置づければいいのか。本書をまとめることは、自分の頭の中を整理するうえでも大変有益でした。

——最後に、読者へのメッセージをお願いします。

知財というのは、知れば知るほど、その深さが分かってくる世界です。でも、その深さを難解さに置き換え、分かる人にしか分からない世界にとどめてしまっただけでは、知財の持つ可能性を狭めてしまうおそれがあります。少しでも多くの企業で知財活動を経営に役立てていくためには、知財の本質を分かりやすく伝えることが大切だと思います。

本書では、大事な原則を分かりやすく伝える、とにかくそこにこだわりましたので、「やれ経営だ、知財だ」とあまり難しく考えずに、読み物としてまずは目を通していただくと幸いです。

※1) 本書の発行に合わせ、以下のとおりセミナーを開催します。

- ・主催：発明協会東京支部
- ・講師：土生 哲也 氏
- ・テーマ：『経営に効く7つの知財力』～社長に聞かせたい知財の話～
- ・日時：9月22日（水）14時より
- ・場所：発明会館7階クラブ

※お申し込みや詳細については、以下のHPを参照ください。

<http://www.jiii.or.jp/tokyo>

書籍紹介



経営に効く7つの知財力

- 第1講：知的財産の意味をもう一度考える
- 第2講：知的財産制度のしくみと知的財産マネジメント
- 第3講：知的財産への取り組みを見直そう
- 第4講：知的財産はどのようににはたらくのか？
- 第5講：経営に役立つ知的財産マネジメントを始めよう
- 第6講：競争力という視点で知的財産を考える

A5判 定価2100円（税込み）送料290円

<http://www.jiii.or.jp/> 発明協会ホームページ
特許電子図書目録からお買い求めいただけます。